

---

# My fair lady...

風音 柚樹

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

My fair lady...

### 【Nコード】

N9050A

### 【作者名】

風音 柚樹

### 【あらすじ】

”僕”等は大人になっていく以上、いつまでも一緒にいることは出来ない。そして別れは、多分そう遠くはない。それでも”君”の事が、愛しい……。

## （前書き）

短編、というよりショートショートです。

切なさのみをピックアップしているのでストーリーの大きな動きはありませんが、

その場の空気を大切に描いてみました。

どうぞ宜しくお願いします。

「待つて、私も一緒に行く」

彼女の髪の毛の香りが、ふわっと近付く。かき慣れた、いつものシャンプーの香り。

「どうしよう、理科のテスト、超ヤバかったんだけど。返ってきた？」

明るい声を聞いても、僕の顔の筋肉は動かない。引きつった笑顔さえ作れぬまま、首を横に振った。

「そっかあ。あーあ、どうしょ。私行く先ないよ、このままじゃ」言葉の内容なんてまるで無視して、彼女はクスクスと笑って見せた。

彼女の小さくて低い声が電気の消えた薄暗い廊下に響いて、すつと、何も聞こえなくなった。まるでリノリウムの床が全て吸収してしまったように。

息をするのは、こんなに難しかっただろうか。

彼女は困った顔をして、俯いてしまった。

彼女は、正直だ。いつだって、嘘をつかない。僕みたいに、卑怯な生き方なんてしない。

嫌なものは素直に嫌と言ったし、楽しい時には本当に楽しそうに笑ったし、苦しい時には、自分の汚れた部分も含めて全てを僕に話し、涙を流した。

そう、彼女はどんな時にも、嘘をついたりはいしない。

だから、知ってる。今の彼女の笑顔の裏の優しさに気付いた、そしてそれは今の彼女の正直な気持ち。

わかってるよ、僕の元気がないから、心配してくれているんだろう？ 僕が寂しいのに気が付いて、そばに居てくれるんだろう？

僕が辛いのを知っていて、明るく話してくれるんだろう。でも。ごめん。僕はやっぱり、うまく笑えない。

「ねえ」

彼女は呟くように言った。

「私はずっと、傍にいるよ」  
かすれた声だった。

「私は、大好きだよ」

彼女の低い声が、言った。

「ありがとう」

彼女と僕の距離は、いつだって、異様に近い。腕が一瞬触れて、温もりを確かに感じる。彼女の声は、とても低い。いつも、僕との間のほんの僅かな空間の空気をふりと震わせ、僕の鼓膜に心地よい刺激を与える。僕は、彼女の声が、とても好きだ。彼女はどんな時にも、その声で、“本当のこと”を言ってくれた。その響きと言葉に、嘘は、なかった。

だから彼女は、今、初めて僕に嘘をついた事になる。本人は気付いていないのだけれど。“ずっと傍に”？ 嘘に決まっているだろう。僕らはあと少しで、離れるんだよ。出来る事なら、ずっと一緒にいたかった。けれどきつと、“運命”なんてものがあるとしたら僕らは、同じ場所に導かれちゃいないんだ。“ずっと”なんて、無理なんだよ。

それでも。嬉しかった。その言葉を”本当”だと信じて、君が、言ってくれたことが。

「僕も、大好きだよ」

多分、君が僕を想うより、ずっと。

## （後書き）

初投稿で緊張気味の風音です。

読んでくださった方、ありがとうございます！

実は初めてのショートショートです。

……が、基本的に私なりのショートショートなので、  
他の方の書かれるショートショートとは少しイメージが違いかも知  
れません；

だからショートショートと呼んでよいのやら……。  
とりあえず、

”文章のリズム感、雰囲気、文の見た目の綺麗さを重視して書く”  
というのが私流のショートショートの目標です。  
小説より詩に近い感じもあるかも知れません。

まだまだ至らない文ですが、感想等頂けましたら泣いて喜びます（  
予定）。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9050a/>

---

My fair lady...

2010年10月28日05時33分発行